

資料1-1 松原地区の津波対策（課題と対応策）（第1回・第2回地区協議会のまとめ）

【1・2・3・4グループ】

第3回地区協議会資料  
(平成28年7月4日)

開催日	H27. 5. 27地区協議会（第1回）		H28. 2. 25地区協議会（第2回）	
分類	意見	考えられる対応策	意見の分類	意見
堤防施設 (津波)	<ul style="list-style-type: none"> <li>海からの津波だけでなく、伊東大川と複数の水路からの津波は安心か</li> <li>川の水はあふれないのか？</li> <li>松川の水位</li> </ul>	(県) <ul style="list-style-type: none"> <li>地元との合意形成がとれれば、L1津波高さに対する堤防の整備を検討できます。</li> <li>堤防の高さについては、地元との合意形成により、L1津波高さに対する必要堤防高以下の高さに決めることができます。</li> <li>堤防の整備にあわせて、二級河川への水門設置を検討できます。</li> </ul>	現況高 20名/31名	<ul style="list-style-type: none"> <li>現況のままで良い</li> <li>水門は検討はしてみる、ただいらない 弱点をチェック</li> <li>ソフト対策はよくやる</li> <li>景観を損なう避難ビルがどうか？</li> <li>現況のまま、砂浜という観光資源が死んでしまう（なくなってしまう）</li> <li>現況                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①高さ、長さ 現況 ②どこまで 4区 ③観光的 ④砂浜の問題 ⑤海岸側の家庭の生活</li> </ul> </li> <li>必要ない</li> <li>ハード面では必要なし、ソフト面で今後主張！</li> <li>基本的には全面的な堤防は無理だと思う</li> <li>堤防については必要なし せいぜい+1mくらい 命山はいくつかあった方が</li> <li>現況のまま</li> <li>現実的な問題として地区での意見の統一等、堤防を作るのは困難かと思うので津波の情報及び逃げの手段の周知をした方がよいのでは</li> <li>7.5m堤防を作ってもメリット期待できるか、川を伝って津波が上がりいらないと思う</li> <li>堤防はいらない！4mあるから</li> <li>堤防はいらない 観光地としてのイメージ悪い</li> <li>堤防はいらない 理由 景観、建設コスト、竣工までの時間                             <ul style="list-style-type: none"> <li>景観→言うまでの理由なし「観光」</li> <li>建設コスト→避難タワーの方がいい堤防コストで何十のタワーが作れる</li> <li>ちなみに和歌山県田辺市のタワーは100人収で2850万 つめれば200人用地買収に手間取れば歩道橋型タワーがいいかと思う</li> <li>例：吉田町のタワーコストも15基で61億で済んでる（町内では1.6億だけ）</li> <li>観光地なのでタワーの観光利用も考える事もできる</li> </ul> </li> </ul>
			現況～L1 (7.5m)未満 7名/31名	<ul style="list-style-type: none"> <li>海が見える景観の確保                             <ul style="list-style-type: none"> <li>→道路だけ堤防の外を通す 市外への入り口は重要</li> <li>→海が見える工夫はできないか</li> </ul> </li> <li>現況+1m程度                             <ul style="list-style-type: none"> <li>→現況堤防高+1m程度の堤防 松原・湯川地区</li> <li>→高波発生時には避難ビルへの避難 寺山町 小川</li> <li>→現況地盤高から1m位の堤防であれば景観はそこなわれないと思う</li> </ul> </li> <li>堤防をつくるの良と思う。ただし条件付き</li> <li>堤防の高さは高い方がよい</li> <li>市街地に入り込んだ水を排出する方法はないのか？</li> <li>堤防を高くしても松川から侵入する津波により海より低い地区が被害を受けるのではないか 高さは3m</li> </ul>
			L1(7.5m) 4名/31名	<ul style="list-style-type: none"> <li>堤防の高さは7.5m必要</li> <li>普段の防災訓練が大切だと思います</li> <li>7.5mの堤防は必要</li> <li>景色と人命 人命をとった方がよい 人がいれば</li> <li>7.5m 協力が難しい</li> <li>もし堤防を建設するとしたら道路もかさ上げした方がいいのでは、高さは7.5mでいいと思う</li> </ul>
			その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>松川対策</li> </ul>

開催日	H27. 5. 27地区協議会（第1回）		H28. 2. 25地区協議会（第2回）	
分類	意見	考えられる対応策	意見の分類	意見
土砂災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松原神社下が土砂崩れにならないか？</li> <li>・奥野ダムが心配</li> <li>・急傾斜壁が5年程前完成し、高台の自宅ですが安全だと思っています</li> <li>・土砂崩れ</li> <li>・ガケ崩れ等調べる</li> </ul>	(県)(市) <ul style="list-style-type: none"> <li>・砂防事業、急傾斜地崩壊対策事業の活用</li> <li>・土砂災害防止法による区域指定、警戒避難体制の整備</li> </ul>		
避難場所 (避難ビル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅の目の前に津波避難ビルがある 老母をかかえているので、そこに逃げるしかない 非常階段は震度5以上で開錠となるが、本当に開錠となるか不安である</li> <li>・津波避難ビルの非常階段は開放されても、フロアが開放されるか不安である</li> <li>・避難ビルの数が少なく、避難者でごったがえすのでは？ビルの中に入れるのか？</li> <li>・避難ビルの川良が近くにある</li> <li>・避難場所のふれあいセンターは夜間、施錠されている</li> <li>・避難ビルは、いつでも入ることが出来るのだろうか？</li> <li>・避難ビルに行ったら、人がいっぱい入れなかったらどうしよう？</li> <li>・高いビルに逃げても、津波に流される危険はないだろうか</li> <li>・階段や狭い通路</li> <li>・どこへ避難すればいいの？</li> <li>・避難場所がわからない</li> <li>・高い場所（高台）はどこ？</li> <li>・避難・誘導 どこにどのように避難するか</li> <li>・どこに逃げれば良い</li> <li>・寺山町内建物被害のチェック ケガ人のチェック</li> <li>・松原公園内にテントの設営 早急に松原公園内の町内防災倉庫のオープン</li> <li>・松原神社内の防火水槽の水量チェック 飲料水として可能かのチェック</li> <li>・食事材料の確保 トイレ設営 夜間照明の確保</li> <li>・食料・飲料水</li> </ul>	(市) <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波浸水区域外への避難が原則ですが、間に合わないと判断したときは、津波避難ビルや倒壊を免れた高い建物に避難を</li> </ul> <p style="text-align: center;">※ 松原人口 約3,200人 避難ビル収容人数 3,849人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難ビルの鍵の管理については、自動開錠キーボックスの設置などを検討していきます。</li> <li>・避難ビルの指定については、今後も検討していきます。</li> <li>・津波避難訓練に積極的に参加してください。</li> <li>・津波浸水区域想定の確認をお願いします。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波避難ビルの入り口にわかりやすいマークを</li> <li>・避難ビルを確保した方が安全と思う</li> <li>・堤防よりも津波避難タワーを等間隔に設置した方がよいと思う</li> <li>・シェルター御前崎 5000万/1隻</li> </ul>
避難路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家の前に空家が2軒ある 道路は4.5mなので通れなくなる</li> <li>・道路が狭い為、避難しにくい</li> <li>・避難道路の確保</li> <li>・避難道は確保されているか</li> <li>・人の流れに動かさせる可能性ある どの道が良いか？</li> <li>・避難経路が倒壊等で通行できない時、2つ3つの経路を選択しておく</li> <li>・道路（車）</li> <li>・車を利用するかどうか（原則は利用しないつもり）</li> <li>・交通網</li> <li>・外に出た時の道路避難経路</li> <li>・家屋が密集しているので、倒壊により道路の通行が確保できるか心配</li> <li>・高さ10m付近に避難するのに、低い場所を通るか、時間がかかっても高さのある安全を選ぶか</li> <li>・近くに避難ビルが無いので、5分で行動出来るか不安</li> <li>・避難する道順は、市の方で望ましい形を示してくれると安心なので、看板表示があるといい</li> <li>・マリンタウンに居た場合、どこに逃げるか？</li> <li>・松原神社の階段が不安</li> <li>・自宅から付近の高台に逃げる途中で、伊豆急の線路とガード有り 不安</li> </ul>	(市) <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災会ごとに津波避難行動計画の作成をお願いしています。</li> <li>・今年度（27年度）中に、津波ハザードマップを配布する予定ですので、避難場所までの避難経路について、自身でシミュレーションしておくことが重要です。</li> <li>・道路上に津波避難方向を示す誘導標識を設置しました。</li> <li>・乗り捨てた車両により、消防車等の緊急車両が通れなくなります。原則、徒歩で避難してください。</li> <li>・大地震が発生した後は大規模な停電が発生することが予想されるため、懐中電灯の備蓄をお願いします。</li> <li>・大地震が発生した後しばらくは余震が続くことが予想されますので、余震によるブロック塀等の倒壊にも注意が必要です。</li> <li>・津波は震源地等により到達時間が変わりますので、あきらめず最善を尽くすことが重要です。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフト面での工夫を</li> <li>・地域住民以外観光客にわかりやすい避難路の標識の設置などが効果的</li> </ul>

開催日	H27. 5. 27地区協議会（第1回）	H28. 2. 25地区協議会（第2回）		
分類	意見	考えられる対応策	意見の分類	意見
避難路	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 5分間で神社への避難は困難（不可能か）</li> <li>2. 温泉会館への避難は可能（津波が未達の限り）</li> <li>3. 住宅は古い建物の為、建っているか不明（ごく明白）</li> <li>・ 全ての人が避難できるかが心配（避難先があるのか）</li> <li>・ 夜の避難路は照明があるのか？</li> <li>・ 避難路は、ブロック等の倒壊の危険がないのか</li> <li>・ 夜と昼では行動が変わってくる！！</li> </ul>			
避難方法 (避難についての知識)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主防災の役員というしがらみにとらわれず、各自がてんでんばらばらに自転車で逃げられるようになればいい</li> <li>・ 家族3人のうち、自分だけの時、逃げるか、家族のもとに行くか</li> <li>・ はだしである！</li> <li>・ 自宅が4Fの為、動かない また1～3Fの住人に対しては、4Fに避難するようにしている</li> <li>・ 町中にいる為、大きな建物に避難する（4F以上の建物）</li> <li>・ 近所の人には、うちに避難するよう決めてある</li> <li>・ 高台へ行くまでの必要な時間がわからない！</li> <li>・ 家族が外出している場合、事前に避難場所を1ヶ所ではなく、2・3ヶ所を皆で決めておく必要がある（状況に応じて）</li> <li>・ 漁船の避難</li> <li>・ 何を持って逃げる</li> </ul>	(市) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大きな揺れや長い揺れを感じたら迷わず逃げる。</li> <li>・ 家族、ご近所等で、あらかじめ地震発生時の行動を話し合っておくことが重要です。</li> <li>・ 漁業者の方は、漁に出ているときや陸で作業をしているときなどに、発災したときの避難行動について、あらかじめ話し合っておいてください。</li> </ul>		
災害弱者対策 (家族) (高齢者・観光客)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おばあさんと障害者の妻を自宅の屋上3Fに避難させる</li> <li>・ 要介護者が多く、連れてはいけない</li> <li>・ 想定された津波高であったら、自分が逃げるだけで精一杯</li> <li>・ 家から脱出できたとして、老人の避難が問題 近くて高い建物があり無いこと</li> <li>・ 101歳の母をどうするか (自宅に居た場合) 逃げるかどうか (施設に居た場合) 高所にあるので津波は心配なし 地震の揺れだけが心配</li> <li>・ 子供を抱えて避難することが、困難ではないかと心配</li> <li>・ 年寄りや障害者がいるので、避難に時間がかかる</li> <li>・ 93歳老女がおり、杖をついて一人でゆっくりなら歩けますが、非常にどんなか心配です</li> <li>・ 障害者・高齢者の避難</li> <li>・ 親類等への連絡・確認</li> <li>・ 子供（孫）達が小さいので確認をする</li> <li>・ 体力がないのが心配です</li> <li>・ 要介護者等、町内の人の避難ビルへの誘導</li> <li>・ 民生委員であり、独居者の安否確認</li> <li>・ 高齢者の対応</li> <li>・ 高齢者を連れて、一緒に避難できるか？</li> <li>・ 近所の年寄りや体の不自由な人は、どこまで声がけ、又は助けられるか</li> <li>・ 民生委員をしているが、はっきり言って自分の家族のことだけで精一杯である つらいものがある</li> <li>・ 家族の避難は年寄りがいるので</li> <li>・ 子供が無事に帰宅できるか</li> <li>・ お客さまの誘導</li> <li>・ 逃げる途中で、観光客に尋ねられたらどうしよう？</li> </ul>	(市) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発災直後は、自助、共助が必要となります。</li> <li>・ 高齢者や障害者については、あらかじめ災害時要援護者避難支援計画（個別計画）を作成しておく必要があります。（社会福祉課で作成中）</li> <li>・ 家族、ご近所等で、あらかじめ地震発生時の行動を話し合っておくことが重要です。</li> </ul>		
情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報がほしい</li> <li>・ 正確な情報伝達</li> <li>・ 情報はどのようにして得ればいいのか？</li> <li>・ 海岸はどうなっているか</li> </ul>	(市) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Jアラート、同報無線、メールマガジン、ラジオ等により情報収集をしてください。</li> </ul>		

開催日	H27. 5. 27地区協議会（第1回）	H28. 2. 25地区協議会（第2回）		
分類	意見	考えられる対応策	意見の分類	意見
情報 (安否確認) (地震直後・しばらくしてから・落ち着いてから) (近所の心配)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震・津波の状況</li> <li>・伊東市全域の状況</li> <li>・他の地域（市外）の状況</li> <li>・テレビ・ラジオよりの情報</li> <li>・広報の指示について（聞きづらい）</li> <li>・最初の揺れの強さ・継続時間から、どのくらいの津波かを判断する事が自分として大事な事</li> <li>・地震の情報入手（次の行動は近くの避難ビルか広域避難場所かこのままか判断） 家族の確認</li> <li>・家族や職場への連絡</li> <li>・家族が全員そろっているか？連絡方法は？</li> <li>・家族と連絡がとれるか</li> <li>・家族の避難</li> <li>・家族の無事の確認</li> <li>・自分の安全を家族に知らせる方法は？</li> <li>・家に居なかった家族の無事を知る方法は？</li> <li>・家族の安全確認 避難できるか？</li> <li>・避難経路 津波避難ビルに一度避難したあとの判断</li> <li>・地震はまだ続くのか</li> <li>・これからの生活の手段</li> <li>・食料・飲み物</li> <li>・周辺は、避難すべき人がどれ位いるのか（心配の要・不要）</li> <li>・近所でケガをしている人はいないか</li> <li>・大震災当日は教師をしていた 児童全員を引き渡すのに、午後7時までかかった 携帯の連絡網はパンクして役立たずだった情報伝達の大切さを感じている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安否情報は「災害用伝言ダイヤル171」を活用してください。</li> <li>・家族、ご近所等で、あらかじめ地震発生時の行動を話し合っておくことが重要です。</li> </ul>		
ライフライン (衣食住)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜中に地震が起きた場合、電燈が消えた時、老人を連れて避難できるのか</li> <li>・非常食や水の確保が出来ていない</li> <li>・避難先での衣食住が確保できるかが心配である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発災直後は物資の援助は期待できません。各自での備蓄をお願いします。</li> </ul>		
仕事・財産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事の関係 お客さん・電話対応</li> <li>・書類の確認（家の）</li> </ul>			
家屋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物の壊れ具合</li> <li>・建物の倒壊は？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和56年以前に建てられた木造住宅については、無料で耐震診断を行います。耐震補強費用の補助制度もありますので、市建築住宅課まで御相談下さい。（TOUKAI-0による支援）</li> </ul>		
火事等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火事が心配</li> <li>・火の元注意</li> <li>・火を消す 近所の様子をみる</li> <li>・火の点検 夜ならポケットライト 防災リュック</li> <li>・近所で火事があるか見る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(市)</li> <li>・電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めてください。</li> </ul>		
持ち物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難用具</li> <li>・家の戸締り 貴重品の持ち出しは、どこまで持っていけば</li> <li>・何を持って避難すればいい？</li> <li>・家の戸締り</li> </ul>			
その他 (判断・医療)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3階に住んでいるが、外に出て避難する方が良いか、家にいる方が良いか</li> <li>・家がつぶれていると思う まず、ケガをしないようにする</li> <li>・まず自身の安全</li> <li>・自助・近助・公助が実践できるか？困っている人を見捨てられるか？</li> <li>・倒れた建物の中に人間がいなか見る</li> <li>・救急車等の誘導をする</li> </ul>			